

【生薬名】胡椒 *PIPERIS NIGRI FRUCTUS*

【起源植物】コショウ *Piper nigrum*



【科名】コショウ科 *Piperaceae*

【別名】

【薬用部分】成熟種子

【主成分】辛味成分ピペリン、精油、脂肪油

【薬性】気味は辛熱、帰経は胃大腸に属す

【効能】●温胃散寒

●胃寒による嘔吐下痢に用いる

●1.5～5g、粉末は1回1～1.5g

●芳香及び辛味刺激性による健胃・駆風作用があるが少量で食欲増進するが、大量では胃粘膜を刺激して充血性炎症を起こす

●薬用には一般に白胡椒を用い香辛料には黒胡椒を用いる事が多い

●胃弱、消化不良、胃反吐食、下痢、腹痛に用いる

【出典】●胡椒 味辛、心腹冷痛、気を下し、中を温め跌撲用うるに堪う(薬性歌)

●

●

【備考】●黒胡椒は未成熟果実をそのまま陽乾したもの

●白胡椒は成熟果実の果皮を除き乾燥したもの

●

【処方例】●胡椒湯（胡椒、緑豆）胃の冷えによる嘔吐下痢に

●

●